

CHIBA LOTTE MARINES CUP 2026 千葉県中学硬式野球大会 大会規定（2026.6.25 現在）

■大会規定(大会運営に関する特別規定)

本大会は、2026年度公認野球規則および下記の大会特別規定を適用する。

また、試合当日、各チームは必ず「大会規定」及び「公認野球規則」を携行すること。

1. 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は、各所属団体に登録を完了したチーム(監督、コーチおよび選手)とする。
2. チームは、25名以内の選手で編成し、ベンチに入る監督、コーチ(スコアラーを含む)は4名までとする(成人のみ)。コーチにおいては、最大4名までの事前登録を認める。ただし、人数が少ないチームについては、合同チームとして大会に参加することを大会本部へ申し出て承認されれば、参加を認める。本大会登録締切日以降の選手、監督の変更は原則として認めない。ただし、コーチ(スコアラー含む)に関しては大会1週間前までに大会本部に申し出て承認されれば登録の変更が認められる。また、登録された監督・コーチ全員が何らかの事情でベンチにはいることができない場合、大会本部の承認を得たうえで新たに1名、チームの指揮を執るものをベンチに入れることができる。また、登録された選手が怪我や病気のため出場できなくなった場合は、登録選手変更届に変更理由を記入の上、大会1週間前までに大会本部へ申し出て承認されれば選手の変更ができることとする。なお、出場選手の登録を抹消された選手は再び出場選手の登録を申請することはできない。併せて、同一選手の別チームへの登録は不可とする。また、全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップおよび所属団体の関東大会および選抜大会、全国大会へ出場を予定するチームについては、＜その他の注意事項・依頼事項＞内の5項での対応も可能とする。当該チームは大会本部の指示に従うこと。
3. 選手、監督、コーチは同一のユニフォームを着用すること。ただし、スコアラーはユニフォームを着用しない。合同チームにおいては本項を適用しないが、背番号は重ならないものとする。なお、背番号は所属の団体の規定に従う。
4. 各チームは必ず成人である責任者が引率し、大会中(開会式から解散まで)は、選手の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負うこと。
5. 大会中の負傷または疾病に対して、各チームは常に薬具を準備して応急処置に備えるとともに、その後の処置についても各チームで対処し主催者は責任を負わない。
6. ゴミは球場施設内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族にも徹底すること。
7. 各チームグラウンド、公営球場使用する際は、各球場の規定に従うこと。使用チーム関係者はマナーを徹底すること。(喫煙ルール等)

■競技に関する特別規則

8. 各チームの監督または代理の者は会場到着後、速やかに所定のメンバー表5通(1セット)を大会本部に提出すること。(第一試合チームは試合開始90分前に会場集合)試合開始予定時刻40分前または前試合4回終了後(コールドゲームの際は試合終了次第)、審判員立会いのもとで攻守の順を決める。

チームが試合開始時間までに現れないときには、球場責任者、責任審判員が協議して没収試合を宣言することがある。

メンバー表交換の際、所定の投球数確認シート(投手ごとに全試合の投球数を記載)も併せて提出すること。仮に、試合開始時間に遅れた場合投球数については、日本中学硬式野球協議会が定めた【中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン】に準ずる。また、大会本部

は提出されたオーダー表と登録原簿との照合を行なうとともに、試合開始前に用具の点検もおこなう。

<投球回数シートの運用方法>

- ・各試合終了後、本シートの投球数を自チームスコアラーが記入・サイン後、自チーム監督へ確認を求める。
 - ・下段の確認欄にサイン後、速やかに大会本部へ持参すること。
 - ・大会本部にて当該試合控え審判の確認を受け、サインされたものを次試合まで保管すること。
 - ・各チームは、次戦時開始前に3部コピーして大会本部へ提出すること。
- 注)連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。
注)連戦の場合は投球数確認シートを当該試合控え審判が預かり、試合終了後に両チームのスコアラーと監督は本部席で投球数を記録・確認後、当該試合控え審判の確認を得る。
- ・鉛筆での記入と複写したシートは無効とする。
 - ・「投球数確認シート」は、毎試合同一のシート(原本)にて管理・提出のこと。

9. 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする
10. 試合時間は2時間とする。(決勝戦も含む)
ただし、審判員が認めたものによる中断は試合時間に計測しない。
11. 試合成立後に、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとし、大会本部が指定した日時、場所で、中断した状況で再開する。
12. 4回以降10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。(ただし、決勝戦にはコールドゲームを適用しない)7回終了あるいは、試合開始から2時間(決勝戦も含む)を超えて(いずれか早い方)両チームの点数が等しい場合、以下の方法でタイブレーク方式を実施する。

<タイブレーク実施細則>

- 7回終了時あるいは試合開始から2時間(決勝戦も含む)を超えて(いずれか早い方)両チームの点数が等しい場合、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態からおこなうものとする。
- ・打者は前回正規に打撃を完了した打者の次の打者のものとする。
 - ・この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが一塁走者、一塁走者の前の打順のものが二塁走者、そして二塁走者の前の打順のものが三塁走者となる。
 - ・この場合の代打および代走は認められる。
 - ・勝敗の決定は2回(決勝戦は3回)までとし、未決着の場合は抽選とする。(抽選は、くじを用意するので、最終守備・攻撃の18人がくじを引き、○の多かったチームを勝者とする。

13. 投手の投球数については、日本中学硬式野球協議会が定めた【中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン】に準ずる。本項はタイブレークにも適用する。ただし、サスペンデッドゲームの再開による試合等について、大会本部が特に指定した場合は投球数制限の対象外とする。
14. 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること(次打者を含む)。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)。
15. 特別代走を認める。これは、特別な事情(死球による負傷など)により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手(投手および捕手を除く)を特別代走者とする。

16. 本大会では、金属製バットのうち、金属と他の材質との接合バットの使用を認める。木製バットについては、一本の木材で作られているもののみ使用を認める。
17. 監督またはコーチが一試合(7イニング)に投手のもとへ行ける回数を2度までとする(投手を交代させた場合は回数として数えない)。2度投手のもとへ行った後、3度目以降に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、3イニングにつき一度だけ投手のもとへ行くことが許される。野手の守備タイムについては1イニングにつき1回までとする。
18. 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して野球規則8.06を適用するが、投手は自動的に試合から除かれることはなく、他の守備につくことができる。また、一度他の守備についたこの投手が再び投手の位置につくこともできることとする。(公認野球規則5.10(d)の原注前段は採用しない)
19. 監督またはコーチから、打者または走者への指示のためのタイムについては1試合(7イニング)につき2回までとする。延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく1回だけ許される。なお、選手の怪我や交代などの場合は回数としてカウントしない。
20. 申告敬遠を採用する。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合、ボールデットで打者を1塁に進める。
21. 公認野球規則5.11「指名打者制度」を使用する。
22. その他特に定めのない限り、2026年度公認野球規則を適用する。

■大会特別規定・補則

23. 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告すること。
24. ベンチは組み合わせ表の若い番号のチームを一塁側とする。
25. グラウンドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
26. グラウンドインしたチームは球場責任チームの運営委員の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
27. 試合前のシートノックは5分間とする。ただし試合の遂行上行わない場合もある。
28. 試合をスピーディーに行なうため以下の項目を守ること。
 - 攻守交代時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - 投手の準備投球は各投手初回イニングに6球以内、2イニング以降の投球練習については原則3球以内に努める。
 - 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
 - 打者は、バッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
 - 次打者は、必ずネクスト・バッタースサークルに入り、待機すること。
 - 捕手は、投手への返球や、野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出てはいけないこととする。
29. コーチボックスには、ヘルメット着用の監督、コーチ、選手のいずれかが入ること。ただし、選手が入る場合は必ず両耳ヘルメットを着用すること。
30. 規則4.06に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
31. 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。
32. 選手が使用する道具については、リーグごとの規則に則り使用を認可する可能性がある。
33. 試合中、次の試合のチームはグラウンド内で投球および送球練習をしてはならない。ただし、グラウンド外に投球練習場がない場合、次の試合のバッテリー1組は5回以降ブルペンで投球練習をすることができる。

34. グラウンド内でのブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打球監視員を必ず1名置くこと。
35. バットボーイ、ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手が務める。
36. 球場外でのボール・バットを使ったウォーミングアップは、安全上の問題から禁止とする。
試合前の球場内でのキャッチボールの時間および順番については、各球場でのアナウンス・時間管理を行う。1 塁側チームからキャッチボール 5 分、トスバッティング 5 分とし、交互に行う。両チーム安全に気を付けて行うこと。
36. 試合当日の天候、気温状態、および試合進行状況によりイニング中でも審判及び実行委員の判断で給水タイムを入れることがある。また、給水時間は試合時間に含まないものとする。

<その他の注意事項・依頼事項> (2026.6.5現在)

1. 大会規定に記載のない事柄について

- 細かいルールの徹底を図るのは難しいため、大会規定に記載がない事項については、大会規定の冒頭の一文中にあり 2026 年度公認野球規則を適用する。ただし、試合のスムーズ且つ安全な運営に支障が見られる場合には、各審判が協議し、最終決定は球審が行うので、各チームはそれに従うこと。

2. ウォーミングアップについて

- 球場外でのボール・バットを使ったウォーミングアップは、安全上の問題から禁止とする
- 試合前の球場内でのキャッチボールの時間および順番については、各球場でのアナウンス・時間管理を行う。1 塁側チームからキャッチボール 5 分、トスバッティング 5 分とし、交互に行う。両チーム安全に気を付けて行うこと。
- チームグラウンド、公営球場問わず、アップ方法は統一で実施をする。

3. 試合時間の間隔について

- 試合間隔は 40 分を目安とする。前の試合の終了時刻から 40 分を目途に開始するため、第二試合以降については、予定時刻より開始が早まる場合があるので、各チーム注意すること。

4. メンバー表について

- 事前に、所定のメンバー表が配布予定となる。本大会では、そのメンバー表を使用すること。

5. 関東大会および全国大会・ジャイアンツカップ等出場チームの特例措置について (大会規定2関連)

- 上記大会と本大会の日程が重複する場合の特例措置として、下記の対応をとらせていただきます。当該チームは、本大会と日程が重複する全国大会・ジャイアンツカップ等への出場が決まった場合には、当該試合の3日前までに、千葉ロッテマリーンズ内マリーンズカップ実行委員まで連絡をしてください。
(株)千葉ロッテマリーンズ ボールパークコミュニティ本部 コミュニティリレーション部 マリーンズカップ実行委員:メール marines-academy@marines.co.jp)
そのうえで、当該試合の前日17時までに、既に提出されている選手登録のほかに、もうひとつ別のメンバー(25名以内)によって構成される登録表を大会本部へ提出してくだ

さい。連絡をうけた後、大会本部より対戦相手チームへ連絡を行います。
不明な点に関しては確認後、お返事させていただきます。

試合前練習の補足事項

1. 試合前のアップ

《第一試合》

球場責任者よりグラウンド開放指示を受け、ベンチに道具を準備完了次第、外野でのアップを行う。
但し、指示(放送又は責任審判から)があるまでは、ボール・バットを使用した練習はできない。

《第二試合以降》

球場外でアップを行う場合は、球場責任者・審判責任者の指示を仰ぐこととする。
前試合終了後、ベンチ入りが完了した後は、指示(放送又は責任審判から)があるまでは、ボール、バットを使用した練習はできない。

2. 練習時間 (アナウンスにて時間管理をおこなう)

	前半 5 分間	後半 5 分間
一塁側チーム	キャッチボール	トスバッティング
三塁側チーム	トスバッティング	キャッチボール

3. ピッチング練習

- 次の試合(第二試合以降のチーム)のバッテリーがブルペンを使用して、ピッチング練習する場合は、行われている試合の 5 回以降(4 回終了時)から使用を許可する。
(ただし規定 33.により、グラウンド外に投球練習場がない場合に限る)

《使用する場合の注意事項》

- ①必ず試合中のチームの了解を得ること。
- ②原則的に試合中のチームの使用を優先する。
- ③ブルペンがグラウンド内のときは、ヘルメット・グラブを着用した補助要員をつけること
- ④グラウンド内は必要最低限の用具しか持ち込めない。
(注: バッグの持込・スパイク履き替えなどの更衣行動は、グラウンド内でおこなわない)

※ 試合前、待機時間にベンチ前でのノック及びロングティー等は禁止する。(第一試合も含む)